

編集後記

私がお世話になった大学には、放射線発生用の小型加速器がありました。私が大学院生になる頃、それまで研究室では発生させたことのない重水素イオンビームの利用が必要になりました。先輩とふたりで利用検討から実施までを担当することになりました。私たちの研究室は自由な雰囲気、研究は学生主体、装置は与えられた期間内であればいつ実験を行ってもよかったです。加速器の運転から分析、解析までを、すべて自分たちで行わなければならないというのが先生方の指導方針でした。重水素運転であることから、入念な準備を行い、工程を決め、ある土曜日に実験を始めるため制御室で待ち合せをしていたところ、先輩が来ることができなくなりました。期日も迫っていたことから、仕方なく一人でイオン源を立上げ、ビーム輸送を行い、放射線モニターを気にしながら、試料に重水素ビームを入射する作業を行いました(今ではとても考えられないですが)。

すると、当然のことながら、重水素ビームと試料である炭素との核反応により入射ビームよりエネルギーの高い粒子を検出し、私は一瞬にしてそのスペクトル画面に釘付けになりました。それまで座学の範疇でしかなかった核反応(質量欠損)というものを、自分ひとりで成し遂げた感動は今でも忘れられず、実験を達成した時、制御室から見えた朝陽は今でも忘れられません。残念なことに、私が使った加速器は阪神大震災によって壊滅的な被害を受け、撤去されてしまったのですが、すぐに更新することができ、後輩達が手入れをしながら大事に使っているそうです。あの経験から20年が経ちました。いまの自分があるのは、あの時の経験があったからだと思っています。そして、なんの因果か、今も重水素ビームを使った研究をしており、どうやらこれから先も長いお付き合いになりそうです。

(落合謙太郎)

プラズマ・核融合学会役員

会 長	二宮 博正	副 会 長	永津 雅章 (推薦委員長: 研究助成)	小森 彰夫 (推薦委員長: 学会賞)
常務理事	室賀 健夫 (総務委員長)			
理 事	安藤 晃 (企画委員長)	石原 修	上田 良夫	
	小野 靖	甲斐 俊也 (財務委員長)	草間 義紀 (広報委員長)	
	佐々木浩一	清水 克祐	白神 宏之 (支部・地区研究連絡会委員長)	
	白谷 正治 (研究部会連絡委員長)	豊田 浩孝 (編集委員長)	波多野雄治	
	福山 淳 (年会運営委員長)	米田 仁紀		
監 事	市村 真	中澤 一郎		

プラズマ・核融合学会誌編集委員会

編集委員長・チーフエディタ: 豊田浩孝 (名大) 副委員長: 米田仁紀 (電通大)

エディタ: 安藤 晃 (東北大), 坂本瑞樹 (筑波大), 中村祐司 (京大), 長友英夫 (阪大), 小西哲之 (京大) 佐々木浩一 (北大)

編集委員: 石澤明宏 (核融合研), 内田儀一郎 (阪大), 浦野 創 (原子力機構), 落合謙太郎 (原子力機構), 陰山 聡 (神戸大), 笠田竜太 (京大), 糟谷直宏 (九大), 加道雅孝 (原子力機構), 川崎仁晴 (佐世保高専), 柴田裕実 (阪大), 清水一男 (静岡大), 白石裕之 (大同大), 城崎知至 (広島大), 鈴木達也 (長岡技科大), 高橋俊樹 (群馬大), 徳沢季彦 (核融合研), 沼田龍介 (兵庫県立大), 長谷川純 (東工大), 林 信哉 (九大), 菱沼良光 (核融合研), 古川 勝 (鳥取大), 増井博一 (九工大), 松岡彩子 (JAXA), 宮澤順一 (核融合研), 森 芳孝 (光産業創成大学院大), 森本泰臣 (日揮), 山本 聡 (京大)

乱丁・落丁本は、ご面倒ですが学会編集委員会宛ご送付ください。送料当方負担にてお取り替えいたします。

プラズマ・核融合学会誌第90巻第10号

編集・発行

〒464-0075 名古屋市千種区内山3丁目1-1 4階

印刷 株式会社荒川印刷

一般社団法人 プラズマ・核融合学会 編集委員会

2014年(平成26年)10月25日

Tel. 052-735-3185 Fax. 052-735-3485

E-mail: plasma@jspf.or.jp URL: <http://www.jspf.or.jp/> 定価1,300円(税別)

本誌に掲載された寄稿等の著作権は一般社団法人プラズマ・核融合学会が所有しています。